

令和7年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(4月1日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の進路希望や社会に繋がる幅広い履修機会を提供するとともに、主体的に学ぶ高い意識の定着と問題解決能力の向上のため、特色ある学校づくりを推進する。</p> <p>②課題解決に向けた探究学習の充実を図り、生徒の思考力・判断力・表現力を育む。</p>	<p>①校務DX化を推進していく中で、ICTを活用した授業研究に係る課題を教員相互で確認し、生徒の探究意欲を引き出す授業を実践する。</p> <p>②総合的な探究の時間における探究活動の取組みを一層深化・充実させる。</p>	<p>①校務DX化を図りながら、生徒に必要なICT利活用を、職員の意見を集約して学習支援グループ及び企画会で検証・検討する。また、相互授業見学等で授業改善の課題等について検討する。</p> <p>②深みのある課題を設定させることで探究活動を充実させるとともに、活動内容の発表後の振り返りを通して新たな知見を見出させる。</p>	<p>①校務DX化をどの分野でどの程度推進することができたか。また、その計画を立てることができたか。相互授業見学や学力向上職員研修で課題に向けた取組を行ったか。</p> <p>②課題設定及び活動の振り返りの方法をブラッシュアップし、探究活動を深化・充実させることができたか。</p>	<p>①校務DX化については、県から指示された内容について、段階的ではあるが、次年度に向けて必要な準備を順次進めることができた。学力向上職員研修については、ICTを活用した授業改善に向けて充実した内容となった。相互授業見学については、引き続き継続して実施していく。</p> <p>②課題設定から発表に至るまでの過程を通して、深みある学習をさせることができた。1年間の探究活動の振り返りアンケートを3月中に実施する。</p>	<p>①主にデジタル採点の導入に向けての校内整備等について全職員に周知したが、次年度以降、実際の運用に際してはまだまだ準備していかなくてはならないことが多い。3月から4月中にかけて対応を完了する。</p> <p>②令和7年度に実施した「総合的な探究の時間に係る意見交換会」での意見を生かしながら探究活動をアップデートし、取組みの一層の深化・充実を図る。探究活動の振り返りアンケート結果を次年度に生かす。</p>	<p>①校務DX化により生徒と向き合う時間を確保すると良い。学力向上研修や相互授業見学では、推奨する授業を複数提示し参観できると良いが、ICT活用に振り回されてはいけず、学校外の資源の活用も検討できると良い。</p> <p>②地域や大学といった学校外の資源の活用を検討すると良い。</p>	<p>①校務DX化を推進する土壌作りを進めた。次年度は、運用面を全体周知し、業務が円滑に進むよう統括する必要がある。生徒の授業評価結果に満足することなく、次年度も生徒が学びや探究をより実感できたと思える授業を展開する必要がある。</p> <p>②課題設定から発表に至るまでの過程を通して、深みある学習をさせることができた。今後は、必要に応じて地域や大学等の外部人材の活用を検討する必要がある。</p>	<p>①学力向上研修や相互授業見学のみならず、外部講師による出張講義等を行い、生徒も教員も幅広い授業スタイルを学ぶ機会を増やす。引き続き授業で使える様々な技術を学び合える講習の機会を増やし、教員の意識をより一層高めていく。また、校務DX化を進めることで職員個々に余裕を生み出し、生徒に向き合い寄り添う時間をより一層確保できるようにしていく。</p> <p>②地域や大学等の外部人材を必要に応じて活用し、探究活動のアップデートにつなげる。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①組織的な相談体制を充実させ、生徒が安心して生活できるように支援するとともに、その社会性を高める。</p> <p>②部活動や委員会活動を通じて、多様な他者と協働することで、集団活動を行う上で必要となること等を理解させ、行動の仕方を身に付けられるよう支援する。</p>	<p>①SC、SSW、教員によるカウンセリング及び相談を実施し、生徒や保護者のニーズに応えながら支援を継続していく。</p> <p>②部活動や委員会等において、生徒がコミュニケーションを図りながら他者と協働することを支援する。</p>	<p>①SC、SSW、教員が常に情報を共有しながら、組織的に生徒への支援を進めていく。また、教員への研修会を実施し、生徒理解の向上を図る。</p> <p>②生徒が中心となって、部活動や委員会等の目標、計画等を作成したり多様な他者と協働したりする場を設ける。</p>	<p>①悩みがある生徒、保護者を適切に支援することができたか。また、研修会後のアンケート等で教員の生徒理解が向上したことを確認することができたか。</p> <p>②生徒が部活動や委員会において、生徒同士でコミュニケーションを図ったり他者と協働したりする場を設けることができたか。</p>	<p>①悩みがある生徒、保護者を適切に支援することができた。また、研修会を通じて教員の生徒理解が向上した。</p> <p>②部活動、体育祭、文化祭等の学校行事を通じて、生徒が地域の方々、部員、委員、教員とコミュニケーションを図りながら活動することができた。特に体育祭、文化祭では、生徒会本部と各委員会が連携することができた。</p>	<p>①SC、SSW、教員三者間の情報共有をより一層強化し、組織的に生徒への支援を進める体制を構築する。</p> <p>②生徒が教員とコミュニケーションや連携を図る中で、意見が対立する場面があった。計画段階から協議する時間を十分に確保し、生徒の主体性を尊重しながら、必要な支援、調整を行う。</p>	<p>①支援を要する生徒は増えている。学級担任等が一人で抱え込むことが無いよう情報共有を密にすると良い。家庭や地域との連携を大事にし、組織的支援体制をより一層強化し、教育相談件数の減少を目指してほしい。</p> <p>②教員と生徒が連携を図るために、目的達成の過程を明確にし、段階ごとの役割を決め、過不足を補い合いながら進める必要がある。②目標に向けた意見の対立は、生徒の成長や教員の生徒理解につながる。多様な生き方をお互いに尊重し合える生徒を育ててほしい。</p>	<p>①SC、SSW、教員の三者が常に情報を共有しながら、悩みがある生徒、保護者を組織的に支援することができた。また、教員への研修会を実施し、生徒理解の向上につなげることができた。生徒対応においては、学級担任や部活動顧問が問題等を一人で抱え込むようなことがないようにする必要がある。</p> <p>②部活動や学校行事において、生徒同士や生徒と教員がコミュニケーションを図る場を設けることができた。特に体育祭、文化祭においては、新しい取組みを生徒が発案し、生徒会、委員会、教員で協議を重ねた上で実現することができた。また、複数の部活動で地域貢献活動を実施することができた。</p>	<p>①学級担任や部活動顧問が一人で抱え込まないように、引き続き、適時学年会等を開くなどして、必要情報を共有していく。</p> <p>②学校行事等で新しい取組を行うにあたっては、意見が対立することもあるが、今後は、生徒同士及び生徒と教員がしっかりコミュニケーションを図り、協議する時間を確保しながら、部活動・学校行事等をより良いものにしていく。</p>

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月16日実施)	総合評価(4月1日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等	
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが自らの意志でキャリアをデザインし、それに基づく進路を実現することができるよう支援する。	個々のキャリアデザインを確立させ、進路実現を支援する。	ガイダンス等を通して自己理解を促す。また、必要な情報を効果的に発信するなどして、進路実現を目指す環境を整える。	ガイダンス等により、個々の生徒がキャリアデザインを確立し、希望する進路を実現させることができたか。	各種ガイダンス等を通じて必要な情報を効果的に発信するとともに、生徒個々のキャリアデザインを確立させ、生徒が希望する進路の実現を支援した。	「自らの進路は自らの力で切り拓くものである」という大前提のもと、生徒自身が思い描く自己実現を高次に果たせるよう、次年度もガイダンス等を通じて情報収集能力や進路選択力を養う。	進路に係るガイダンスは、教員と外部講師を上手く組み合わせる必要がある。大学卒業後の進路情報を含め、最新の大学受験情報を、いつでも生徒に提供できるようにして欲しい。また、外部人材を活用したキャリア教育の機会も取り入れると良い。	各種ガイダンス等により生徒個々のキャリアデザインを確立させ、生徒の希望進路の実現を支援した。過度な情報提供や支援により、生徒の情報収集能力や進路選択力の向上を妨げることが無いよう、次年度も支援の在り方を見極めながら、生徒の進路実現を支援していく必要がある。	外部人材を必要に応じて活用しながら、情報を効果的に発信し、生徒の情報収集能力や進路選択力を養い、生徒の進路実現を総合的に支援していく。
4	地域等との協働	情報等を適時適切な頻度で発信するとともに、地域等と連携し、地域等と生徒、職員が協働して、より一層開かれた学校づくりを推進する。	①学校ホームページを有効活用し、最新情報を速やかに更新、発信することで、本校の教育活動を広く周知する。 ②-1 地域清掃や座間市、近隣住民と協力して実施する防災訓練などを、生徒にとって「主体的、対話的で深い学び」となるよう支援する。 ②-2 防災委員会及び美化委員会との生徒に地域連携活動に主体的に取り組むよう促す。	①ホームページ更新に係る講習会を適宜実施し必要な働きかけを丁寧に行いホームページ更新作業を適時円滑に行うようにする。 ②-1 防災委員と美化委員を中心に地域清掃や防災訓練を行い、ホームページ掲載する。コロナ禍で簡素化した交流を復活させる。生徒中心に、近隣住民と意見交換等を行い、要望等を共有し活動を検討する。 ②-2 防災委員会及び美化委員会に、活動内容を考えさせる。	①グループリーダーや部活動顧問に発信を促し本校の教育活動を地域等に周知するとともに、地域等との協働体制を構築することができたか。 ②-1 生徒主体に地域等へ働きかけ、意見交換を行う機会を設けることができたか。お互いの要望等を共有しながら、より現実的な防災訓練を実施し、地域協働活動を含めた防災計画などを立案することができたか。 ②-2 防災委員会及び美化委員会が具体的な取組みを立案し、実施することができたか。	①職員に個別対応し、夏前には部活動の配信内容を更新できた。行事予定は配信できたが、取組状況報告は課題が残る。 ②-1 地域清掃では、地域住民と主体的に係り、地域の一員としての自覚と協働体制を構築することができた。 ②-2 地域清掃活動は、職員からの生徒委員会への働きかけと自治会との調整が遅くなり、当初予定通りとはならなかった。防災活動は、防災委員が主体的に立案し、実施することができた。	①文化部などのホームページ更新が少ない。日常の活動報告等更新を促す。学校行事の取組状況等配信遅れが目立つ。行事の記録係、カメラの貸出し等工夫し、記録を残すようにする。 ②-1 生徒から自治会へ連携を働きかける等環境保全を担っている自覚を促す工夫をする。 ②-2 必要な働きかけを早期に行い生徒の主体的な活動を支援する。地域との連携を密にし生徒主体の地域清掃活動に向けて支援する。防災委員会の振返りを次年度の活動計画に活かす。	①ホームページは、学校のブランド力を表現する重要なツールであり、適切な情報更新は情報発信力やフットワークの良さを示し、学校への信頼度を上げることになる。県民の興味をそそるように、ホームページを充実させてほしい。 ②防災時を想定し、地域自治会は高校生に大きな期待を寄せている。そのためにも、地域と関わる機会をより一層増やして欲しい。自治会の回覧に学校からの文書等を添付する等、自治会からも学校との必要な協働を働きかけていきたい。	①多くの職員はホームページの更新作業に慣れたが、業務が多くなる時期には、更新が遅れたり、更新しなかったりすることがある。 ②地域清掃活動を通し共に参加した地域住民と主体的に意見を交換させることを通して、生徒に地域の一員としての自覚を持たせるとともに、地域との協働体制を構築することができた。今後は、清掃活動を充実させるだけでなく、防災時の連携、協働体制を充実させ、災害時に地域貢献できるよう地域に根ざした学校を目指す必要がある。	①最新情報を迅速に発信し、ホームページを充実させる。行事の事前情報や実施報告などを適時配信し、本校を紹介する取組みを丁寧に行う。今後も職員への必要な働きかけを続け、こまめな更新の重要性について意識啓発を図る。 ②地域防災に係る自治会との協議の場を早期に設定し、地域に根差した充実した活動となるよう工夫する。自治会回覧の活用等や意見交換等の交流を通して、地域との連携、協働を日頃から深めていけるよう取組む。
5	学校管理 学校運営	①事故、不祥事の防止を徹底するとともに、安心して安全な学校づくりに組織的に取り組む。 ②本県の「働き方改革」に合わせ、効率的で合理的な働き方について研究し、その成果を教育活動に生かす。	①事故・不祥事事案を起こさない。安全で安心な学びの場を提供する。 ②本県の「働き方改革」に関する指針を基に、本校における働き方改革の加速化を目指す。	①不祥事防止会議、グループ会議等を通して、職員相互の事故・不祥事防止に係る意識を高める。経験年数の浅い職員に特化した校内研修を行う。 ②衛生委員会の改善意見等を参考に準備を進める。職員対象アンケート調査を実施する。	①月単位で、事故・不祥事事案が発生していないかの振り返り及び事故・不祥事防止の徹底が成されたか。 ②衛生委員会で、業務改善に係る必要な検討を行うことができたか。また、実施可能な業務改善にアンケート調査の分析結果を活かすことができたか。	①概ね目標は達成できた。引き続き安心して安全な学校づくりに組織的に取り組んでいく。 ②-1 「働きがい改革ZAMA」がオフィス改善の検討を行うが、達成状況を記すまでには至っていない。 ②-2 業務アシスタントを有効に活用できるようになってきた。検討会議やアンケート調査をする必要はなくなった。	①事故・不祥事を起こすことがないように継続して意識啓発活動を実施する。 ②-1 「働きがい改革ZAMA」を活性化し、オフィス改善活動を推進する。 ②-2 私費会計業務を含めた業務の整理と可視化により、業務アシスタントと新たに配置される業務サポーターに円滑に業務依頼ができる体制を構築する。	①不祥事は、職場の風通しの悪さと本人の魔が差した行動に起因する。不祥事防止会議をマンネリ化させことなく有効的に機能させることが大切である。 ②-1 オフィス改善は、他校を参考にしてウェルビーイングな職場環境として欲しい。 ②-2 学校が支える多様な主たる業務の整理と可視化により、業務アシスタントと新たに配置される業務サポーターがストレスなく業務を引き受けられるよう、日頃からの雰囲気づくりを進めるとよい。	①概ね目標達成したが事故不祥事の根絶については、引き続き意識啓発を図っていく必要がある。 ②-1 「働きがい改革ZAMA」を活性化しオフィス改善に向けて準備する。地域連携の活性化に向けて検討する。 ②-2 学校 Teams 掲示板に業務アシスタント及び業務サポーターへの業務依頼ページを設定した。活用状況を確認し円滑な体制を構築していく必要がある。	①定例の不祥事防止会議や経験の浅い職員研修を工夫し、不祥事「自分事」として捉えさせ、安心安全な学校づくりに組織的に取り組む。 ②-1 「働きがい改革ZAMA」を活性化しオフィス改善を準備しウェルビーイングな職場環境づくりを推進する。地域との連携体制を構築していく。 ②-2 教職員と業務アシスタント等のコミュニケーションを密にし、業務負担を軽減する。